マンガの眼⑱

「落差」のおかしさ

——泉昌之

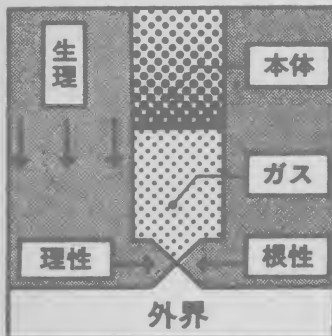
終電にちかい中央線が三鷹駅ホームにはいってくる。トレンチコートにソフト帽の男が降りる。同じかっこうに濃いサングラスをかけた連れの男となにか意味深長な会話で別れをかわして、男は階段をのぼりはじめる。「……まったく」「ひでえ仕事をしょいこんじまったもんだぜ」「まあ、いい……」「……そうさ」「貧之くじひくのはいつも俺だ」「うっ……」「骨にまでしみる北風だぜ……」。

ソフト帽をまぶかにかぶり、コートのえりをたてた男が、うつむきかげんに階段をのぼり、改札をとおって駅前広場にでる七コマのセリフが、右の引用である。

一見して怪しい人物のステレオタイプが、太く力づよい描線とベタの多用によっていっそう効果的に描かれる。ふたむかしもまえの貸本マンガにでてきそうな雰囲気がただよい、なつかしいことばでいえばハードボイルド・タッチがみなぎる。

泉昌之の「ロボット」は、こういう始まりかたをしている。この暗くきびしい表情をもった男が、最終ページでは、しぶり腹に耐えきれずにウンコをもらして「ズーッコッ、ズーッコッ」という擬音をはでにひびかせながら夜道を歩いている。泉のことばをかりれば、「本体」を噴出させようと外向する「生理」の圧力を、「根性」と「理性」の内向する力によって支えていたものがおそらく大量に「外界」へでてしまい、男は足を上げてはとても歩くことができないのだろう。

しずまりかえった深更の高架下の夜道にひびく「ズーッコッ」という足音と、おしっこにおきた幼児の「ママー、どーろにロボットが歩いてるよ」というセリフの効果は、そうとうなものだ。

これまでのところ、泉昌之の作品の真価は、こうしたおかしさが、作者の平然としたリアリスティックな筆つき

から想像もできないような落差をともなって一挙に現われるところにある。いわば「ロボット」と同じタイプの作品『ガロ』一九八一年一月号の「夜行」も、であった。同誌五月号の「ウルトラの星」が、いまいったような意味での落差を生かしたものでなく、類型的といってもいい平凡なパロディ(じつは、たんなるわるふざけだろう)にしかならなかったことを考えるとき、泉の個性の方向性はおのずとみえてくる。

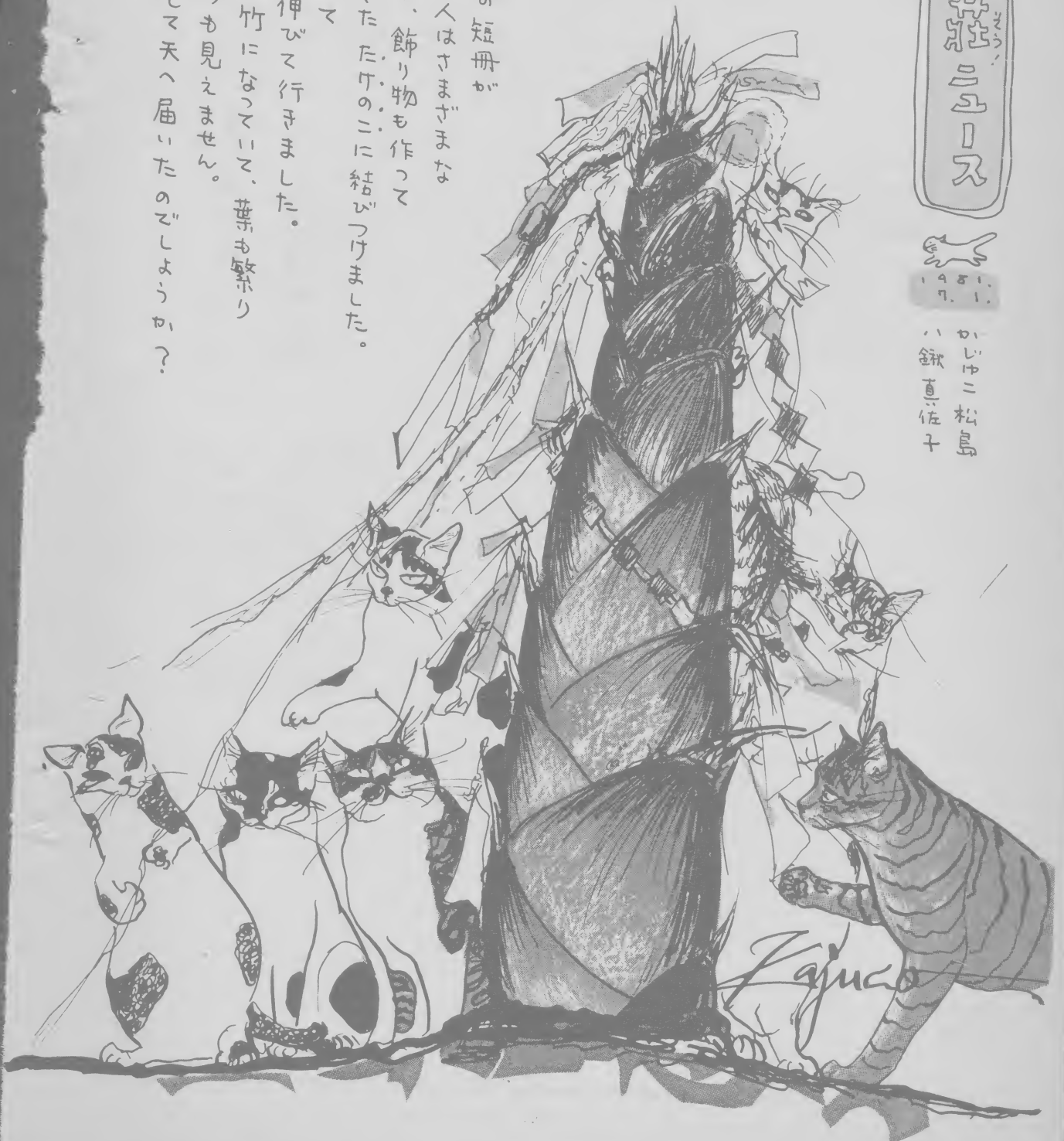
「夜行」のおもしろさは、「ロボット」のそれのように、いかにも劇画的な剛直な描線やダイナミックな絵柄によってファルスをつくったことにもあるけれども、そこでの落差の大きさよりも先に、この作品のおもしろさを根源的なところで支えたのは、もう一つべつの要素だったともいえる。

「夜行」の主人公は、やはりハードボイルド劇にふさわしいようなトレンチコートにソフト帽のいかつい男である。しかし、かれがこの作品のなかで始めから終りまで、はげしくこだわりつづけて葛藤するのは、一個の駅弁である。たかが駅弁の中身とそれの食い方にかんして思弁的に思い悩み、一喜一憂する作品の展開は、そうとうにおかしい。「ロボット」にもでてくる「図解」がそこでもいっそうゆたかに(?)つかわれていた。そうなのだ。たかが駅弁をめぐって、なにから攻めれば破綻のない食い方ができるか、めしとおかずの均衡を守るには次になにを食うか、とちゅうでその順序を再編成するための総括と反省etc。このきまじめさのもつおかしさは、「ロボット」のばあいよりも明確にでている。

劇画家としてまだ生硬さをのこした筆致も、このおかしさにとってはむしろプラスになってみえる。「夜行」の結末が、カツだとばかり思っていたフライがタマネギだったと知ったこの男の「こんな弁当買った俺がバカだったんだ」という悔恨と悲嘆で終わる、どちらかといえば予想どおりのものである点からみると、「ロボット」の結末のほうがわずかに表現としても、構成としても、「高度」になっているといえるのかもしれない。

いずれにしても、ハードボイルドチックなこわもてのする男の独白劇というワン・パターンをぬけられるかどうかが、泉昌之の今後のしごとの最大の課題だろう。

梶井・純

あらまあ荘ニュース
1981.7.1.
かじゅこ松島
八鍬真佐子
あらまあ荘では
五月はじめに七夕の短冊が
くばられました。住人はさまざまな
願いをそれに書き、飾り物も作って
たまたま生えてきたたけのこに結びつけました。
雨も降り、日も照って
一日一日たけのこは伸びて行きました。
いま見ると大きな竹になっていて、葉も繁り
短冊や飾り物は一つも見えません。
みんなの願いは果して天へ届いたのでしょうか？
Kajuco

シュウコがメキシコから帰って来ました。
織物のべんきょうに三ヶ月行って来たのです。
あちらは陽が強いのでよく灼けて来ましたが
裸になると白いウェット・スーツを着ているよう
です。

自然と人間を考える

どうぶつ会議かいほう

1981.7.1.

かじゅこ松島
八鍬真佐子

人間はとんでもない事を計画している

空にふたをしてどうしようというのか？

おそろしいマルチ大気管理方式

自然を荒らし動物を減らす人間問題特別委速記録

相手はけだものだ、かみつかれでもして怪我しちゃたまらん。いいから解るように説明してやれ。

えー、これはあくまでもあなた方の知能程度に合わせた御説明ですから、正式なものではないことをはじめにお断りしておきます。

マルチ方式では都市全体にふたをして大気管理の集中度を高め、かつ防衛上の必要を満たすものです。

な、なんですって！

空にふたをする？

ど、どうしてそんな？

キチガイ！

何てことを！

そ、そ、それは、ど、ど、どんなふうに？

お答えいたします。すべて原子力でコントロールされます。

どーだ、原子力だぞ、おそれいったろうって。

え？。

それには莫大な予算が必要ですね？

どんな莫大な予算でも防衛上の必要とあればどんどん出ますヨ。

どんな必要なんです？

それは国家機密保護法によりお答えできません。いやしくも防衛問題ですからねえ。

人間さんたちはそれで納得したんですか？空にふたをするのを！

納得というような低次元の問題ではないのです。

またお聞きしますが、それで空気はきれいになるのですか？

きれいというような古くさい観念は全く何の役にも立たないものです。このシステムでは人間の生存に必要な大気中の成分は学問的に分析されており、それに基いて再生されるのです。またそれに合せて人間と経済動物の在り方を進められるよう、生物工学が研究されています。

どーだ、おまえたち、分析・再生だぞ。人間は科学で何でも出来るんだ、生物工学だぞ、ん？ん。

（つづく）

物一覧表

振替東京０－135477
〒101　千代田区神田神保町１の62

青林傑作シリーズ　各巻Ａ５判　1200円

①フーテン(上)　永島慎二
虚構の青春の中に真の人間の生き方を鋭く抉り、永島慎二がやさしく君に語りかける。

②フーテン(下)　永島慎二
人生とは何か？……青春とは……。若き世代の苦と喜びの青春残酷物語。

③寺島町奇譚　滝田ゆう
古きよき時代の下町を絶妙の名人芸で描出する。

④黄色い涙　永島慎二
悩みと喜びの青春をゆく旅人たち　永島慎二がやさしい若者たちに送る友情の記

⑤だめ鬼　村野守美
人生の機微を描いて温かく感動を呼ぶ　村野守美絶妙の職人芸！

⑥そのばしのぎの犯罪〈第一部〉　永島慎二
激しい浮沈の運命を生きる男そのばしのぎ、シリーズ青いカモメSIDE②

⑦狂人関係〈第一部〉　上村一夫
風狂の絵師上村一夫が描く画狂老人北斎の生涯！

⑧青春相続人　宮谷一彦
極寒のアラスカに伝説の黄金トナカイを追う、天才宮谷一彦が現代に問う青春論！

⑨花いちもんめ　永島慎二
メンコのスーパーヒーローナタ政とゆかいな仲間たちがくりひろげる痛快下町メンコ戦争！

⑩白い伝説　真崎　守
北国の長い夜に語りつがれて来た雪女伝説、飛んでる真崎守が新しい神話を送ります。

⑪狂人関係〈第二部〉　上村一夫
葛飾北斎とめぐる人々のおりなす壮絶なる人間模様。

⑫泥沼－どぶだめ　村野守美
巨匠村野守美がしみじみと人生を物語る、好短篇集。

⑬港野郎にきをつけろ！
貸本漫画時代のあの感動がいま鮮かに甦る、永島慎二初期名作リバイバル！

⑭親不知讃歌（おやしらずさんか）　松本零士
敷井高志14才、親の知らない世界もある　これはその親の知らない物語………

⑮狂人関係〈第三部〉　上村一夫
降る雪に、散る花ビラに舞い惑う、画狂北斎をめぐる鮮烈な人間像。

⑯よさこい節　青柳裕介
郷里・南国土佐を舞台に、デビュー当時の青柳裕介が描く珠玉短篇集。

⑰秘戯御法（ひぎぎょほう）　村野守美
巨匠村野守美が性の深淵をえぐる!!

⑱おせん　楠　勝平
ひたすら漫画に命を燃やし若くして逝った楠勝平、ここには、素直に涙できる本当のやさしさがある。

⑲狂人関係〈第四部〉　上村一夫
大好評上村一夫の最高傑作〈狂人関係〉完結編!!

⑳媚薬行　村野守美
欲望に操られる人生、媚薬に託した人の哀れ。

㉑そのばしのぎの犯罪〈第二部〉　永島慎二
月刊漫画ガロ大好評連載のうちに遂に完結！

㉒ブルーセックス　川本コオ
遠い記憶の中から甦える甘ずっぱい思い出。

㉓六の宮姫子の悲劇　つりたくにこ
不条理なたそがれの夜明け、酔狂な愚者達が演ずる悲劇的喜劇の惨劇。

㉔龍神　村野守美
求めて追えば逃げ、拒めば追われ、真にままならぬは業火現世の無常……

㉕サロメの唇　手塚治虫
むかし長崎に青い目の遊女がいた　異国情緒あふれるエロチックロマン!!

㉖傀儡がえし　白土三平
赤目の観世音と呼ばれる正体不明の忍者、その不思議な術とは……!?

㉗ぬけられます　滝田ゆう
日本的な大衆の欲望と悲願とをとりあげた、独自のユーモアの結晶!!

㉘チライ・アパッポ　矢口高雄
亡き愛妻の生まれかわりと信じ、男は幻の巨魚を執拗に追い続けた……

現代漫画家自選シリーズ　Ａ５判

狂葬剣記　政岡としや　580円
ノってる漫画家政岡としやの佳作短篇集。

陽炎　青柳裕介　540円
デビュー当時の作品で綴る青柳作品の原形。

男一発　辰巳ヨシヒロ　480円
辰巳作品の根底に漂う無気味な亡霊を探り出す！

岩本武蔵　岩本久則　480円
不条理とアルセンスの二刀流宮本ならぬ岩本武蔵！

おえんの恋　池上遼一　480円
炎と化した江戸の町女が一人情炎に燃え盛る。

蒼き狼の咆哮　佐藤まさあき　480円
19才は死刑にならない！都会を彷徨する殺人者達！

よくふか頭巾　永井　豪　540円
根性と執念の男快盗よくふか頭巾は今日もゆく――！

ホンダラ部落　砂川しげひさ　480円
飄飄とした描線にのせて贈るナンセンスの極地！

わら草紙　勝又　進　600円
農村の風情を背景に人の世のはかなさを描く

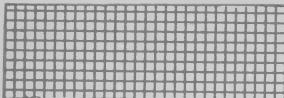
乱華抄　上村一夫　600円
青い季節は哀しくて、狂乱緞子にしのび泣き

日本チャンバラ伝　高信太郎　600円
手に汗にぎるしょんべんちびる、古今の豪傑の名勝負

与太　ほんまりう　580円
古き良き時代を背景に姉弟愛を描く秀作

黒衣の妖女　平野　仁　580円
鬼才平野仁が秀麗なタッチでおくる快作

喜劇新思想大系　山上たつひこ
抱腹絶倒＋驚天動地×支離滅裂＝●☆×〓!!!?
正 580円　続 580円　続々 580円

血染めの紋章　かわぐちかいじ
2.26事件を克明に描写する！
第一部 580円　第二部 580円

モヨリノショテン　マタハ　チョクセツ……
トウシャマデ　オモウシコミクダサイ。

青林堂出版

林静一作品集

彩色描き版40頁描き下し『花に棲む』
を初め、マンガにアニメに異彩を
放つ林静一のすべて！　B５判箱入・1600円

永島慎二傑作集

各巻／A５判函入上製本／330頁(カラー2色を含む)／1500円

第一巻　さんしょのピリちゃん(処女作)／天使のいる街／漫画家残酷物語／漫画博物館／はらっぱのものがたり／自画像　他

第二巻　愛犬タロ／源太とおっかぁ／拳銃物語／丘の上のホロ／新雨月物語／生命／オムニバス恋／カカシがきいたカエルのはなし　他

第三巻　どんぐりと山猫／砂山／おしゃべりなトト／日本昔話／おふくろ／仮面／少年の夏／いじめっ子サブ／青春劇場／海　他

第四巻　心の森に花の咲く／ク・ク・ル・ク・ク・パロマ／ソウルの響き／青春裁判／少年／旅人くん／フォト・夏／遺書　他

芥川賞受賞作家
尾辻克彦こと赤瀬川原平
の２大異色作品集!!

櫻画報大全

全国読者の熱望に応えて新装改訂なった名著『櫻画報』の最終決定版！

B５判上製箱入　三〇〇〇円

虚構の神々

UFO！現代の謎を追って奇才・赤瀬川原平が快刀乱麻を断つ！

A５判上製箱入　一八〇〇円

送料は「性悪猫」「クシー君の発明」「タラコクリーム」「フープ博士の月への旅」「爆破」が各250円、「櫻画報大全」「風の吹く街」が各350円、その他は１冊につき各300円かかります。

評論

秋山清著
郷愁論—竹久夢二の世界
漂泊の詩人・竹久夢二の〝郷愁〟の本質をさぐり、反逆とは何かを問い正すユニークな夢二論
一、七〇〇円

上野昂志評論集
沈黙の弾機
赤瀬川原平論、加藤泰論(以上書き下し)、鈴木清順論、林静一論、ヤクザ映画論、歌謡曲論他
九八〇円

渡辺一衛評論集
異端の唯物論
60年安保以来派生した幾多の問題と真摯に取り組んだ画期的論文集—ソ連官僚制社会主義論
九八〇円

野本三吉著
爆　破
〈コミューン〉を求めて彷徨う著者が若松との対話から人間の原質を問う衝撃のドキュメント
六八〇円

タラコクリーム　渡辺和博著

正義の筋肉、悪の筋肉、青春の筋肉、愛の筋肉がエネルギッシュにまとめあげた精神のボディビルマンガ!!

A５判・850円

性悪猫　やまだ紫著

せけんなど　どうでもいいのです。
………　お日様いっこ　あれば

A５判上製　950円

フープ博士の月への旅

たむらしげる著

夢多き大航海時代の月世界探険。
波乱万丈で驚天動地、
奇想天外で抱腹絶倒の冒険大活劇!!

A５判上製1000円

クシー君の発明

鴨沢祐仁著

魅惑のオブジェ　夜の星
流れ星がコスモにむかってスパーク

A５判箱入上製・1400円

月の光　花輪和一著

世人の怨念がうず巻く限り月の光は消えません、何百年でも何万年でも……

A５判上製貼函入・1400円

青の時代　安西水丸著

悲しく、孤独で、透明な意思が、
弱光の風景の中に鮮かに甦る。

A５判上製貼函入・1500円

ピクルス街異聞

佐々木マキ著

闇夜にひそむブラックホール
一度のぞいたらさあたいへん!!

B５判上製・1300円

シリーズ青いカモメSIDE④

風の吹く街　永島慎二著

出合い・別れ
人生の一瞬をとらえるユマニスム　B４変形・箱入上製本
永島慎二傑作短篇集　108頁(カラー15頁)/1800円

シリーズ青いカモメSIDE⑤

リリィのブルース

オチャメで楽しいシティガールの
オシャレで優しいラブストーリィ　永島慎二著

AB判・箱入上製本／オールカラー72頁／2000円

目安箱183

わかりやすくということ

上野昂志

それは、つい、この間買った文庫本の間に入っていた。だから、大きさも、そこに収まるくらいのものだ。中央に、髪を梳いている女の写真をボカして入れ、その右側に、「明治の女は、熱かった」というコピーを赤で入れてある。左側に、「樋口一葉・たけくらべ／にごりえ」という文字がある。むろん、本の広告だ。そして、それだけなら、わたしも納得したし、あるいは、納得しすぎてほとんど目にも止めなかったかもしれない。

ところが、そこには、オマケがついていた。樋口一葉……の隣に、円地文子・田中澄江＝訳という文字があったのだ。これには、こっちの目がひっかかった。カチーンときた。いったい、「訳」とはなんじゃい、訳とは、と思ったのである。で、折りたたまれたビラのなかを開けてみた。と、『金色夜叉』は森敦の訳、『高野聖』は秦恒平の訳、『不如帰』は沢野久雄の訳、そして、訳でないものは「編」になっているが、それには、『吾輩は猫である』を山本健吉が「編」というのまである。これが全部で十巻、版元は、学研。まったく、あきれたもんだよ、カエルのションベン。

いったい、どうして『たけくらべ』や『金色夜叉』を訳さなければいけないの。あるいはまた、『高野聖』を訳してどうするの、と、わたしはいいたい。版元の説明によれば、明治の文学は、難解な文語体が多く、昭和の私たちには読めなくなっているから、わかりやすいように、現代語に訳すのだ、という。ホウ、そうかい、と、わたしは思う。そういえば、いかにももっともらしく聞えるが、本当に、そんなに明治の文学というのは、「難解な文語体」かね、といいたくなる。たしかに、『たけくらべ』は文語体だが、声を出して読んでいるうちには高校生でもわかるはずで、『源氏物語』などとはまったく違う。まして『高野聖』に至っては、文語体ですらない。

むろん、わたしのようなオジンは基準にならない、といういい方はあろう。しかし、わたしなどは典型的な戦後教育派で、漢字制限なども一番ひどいときに育ったクチだ。いまだって、書き順はきわめていい加減だし、文字も知らない。石川淳などにいわせれば、文字通り、眼に一丁字もない手合いだ。ゴケンソンをなどといわれちゃかなわんから、あえて恥を申しあげれば、大学生になっても、清々しいなどという文字を見ると、ウン、これは、セイセイしいか、などと首をひねっていたくらいのものだ。だからいまだに女房に、あきれたもんだよ、カエルのションベン。

これは御存知フーテンの寅のセリフだが、最近の寅さんは、ほとんどこういったことを口にしない。日本共産党的善導主義で、すっかり借りてきた猫、いや、居つきの猫みたいにおとなしくなり、良識的になり、トラヤでゴロニャンとばかりに喉を鳴している寅さんでは、似合わないのであろう。だから、わたしも、こんなセリフを想い出したのは、最近の寅さん映画を見たためではない。家の近くにある小和田公民館というところで、この五月にやっている映画村にかかった、森崎東の一九七〇年の作品『男はつらいよ・フーテンの寅』を見たためである。

森崎・寅は、居つきの猫ではなかった。あくまでも一人孤独の野良猫だった。そして、前記のセリフを、見上げたものだよ屋根屋のフンドシとワン・セットで、しきりと喚いていた。わたしは、そのことに改めて感心したのだが、いま、白い紙をじっと睨んでいるときにそれが浮んできたのは、この映画を反芻していたがためではない。そうではなく、一枚のビラ、というか、挟み込み、というか、それを見たためである。

お前さんは教養がないからといわれても、まことにごもっともと、首をうなだれている次第だ。

そういった、昔だったら車夫馬丁に等しい——オウ、ごめんよ差別して——手合いでも、高校生のときに『たけくらべ』など読んで、ちゃんと感動までして、最後のところなど暗唱していたのだから、こういうときに文句をつける権利はある。もちろん、清々しいだの形々しいだのについては、右に申し述べたとおりの始末だから、どこまで理解が届いていたかは、保証の限りではない。いや、理解どころか、いまから振り返ればどっと汗の吹き出すぐらいの誤解、曲解も平気でやっていたろう。

しかしそれでも、強がりをいうようだが、わからないところはムニャムニャで素っ飛ばしても、もとの文章にじかに触れることで、その調子、息づかい、リズムといったものは、たしかにこの体で感得することができたのである。であればこそ、いい加減不良がかって、親の目を盗んではロカビリー喫茶に潜り込んでいたガキでも、『たけくらべ』の結末に胸をつまらせなどしていたのだ。

それを、わかりやすい現代語に訳すとは、いったいどういう了簡かと思う。いや、わたしは、訳によって原文の香り高い調子が損われるとか、内容が稀薄になるとか、そういった原文第一主義でこういうことをいっているのではない。教養主義や文化主義で文句をつけているのではない。そうではなく、これは皆さんには難かしくて、食べこなすには骨が折れるでしょうから、易しくかみ砕いてあげましょうといった式の、何が何でもわかりやすく、抵抗が少なくてすむようにという配慮に、お節介に、どうにも腹をすえかねているのである。冗談じゃねえや、まったく。わかりやすいということが、そんなに大事なのか、と思うのである。

しかし、どうやら、最近の世相はまさしく、わかりやすいことが価値になっているらしいのだ。そして少しでもわかりにくいこと、難しいこと、呑みこむとひっかかって抵抗があること、そういったことはよくないというふうになっているらしいのである。もっといえば、少しでも調子の違うもの、質の異なるものにじかにぶつかるのを回避するという工合になっているのだ。むろん、たとえそうであっても、それが個人の気分であるなら、わたしはあえて文句はつけない。お好きなように、というだけだ。だが、現在はそうではない。自分の現在の気分や雰囲気にとって異質なものをあらかじめ回避し、それを、できるだけ「異和」のないものに変えていこうという力学が、まさしく制度としてわれわれのまわりにはびこっているのだ。ここでは異質なもの、眼ざわり耳ざわりになるものは、すべからくその角ばったところを落して丸くしていき、そうなって初めて受け入れるという強制力が働いているのである。

「難解な文語体」だから現代語に訳す、などというのも、そのひとつである。難解なものを、難解なまま丸かじりにして何が悪い？　うまく喉を通らない？　舌ざわりが悪い？　それとも消化不良で下痢を起すか。上等じゃないか。下痢して全部が流れ出しちゃったって、結構なことだ。そういうものを丸かじりにした経験だけは、消化がいいようにかみ砕かれたものを口にすることによっては決して得られないものだからである。

それに、文学にしても何にしても、われわれがそれに触れるのは、決して消化を目的とするからではない。とりあえず、それが食ってみたり触ってみたりする気を起さすから、手を出すのである。いまの社会は、その欲求を、保護と管理によって奪いとろうとするのである。と同時にまた、異質なものにぶつかる経験を奪いさるのである。

読者サロン

ノリマンの着てるタラコクリームのTシャツの欲しい人はゴシップ欄を読んでね!!

表紙がうれしかった

佐藤多佳子（郡山市）

ガロを定期購読しはじめてもう三年になります。つりたくにこさん、素敵ですね。オージ様も実に良い。杉浦日向子さんも好きです。
この頃は村野守美先生が少し淋しいです。もっとがんばって欲しい。「かわらもん」のシリーズが好きです。またゼヒ描いて欲しい。
谷弘兒さんもおもしろいなあ。うん、実にガロは幾度よみかえしてもあきません。今月号は表紙が林静一でとてもうれしかった。
「ガロ」はいつまでもつづいて欲しい(セツジツに)。他におもしろいまんがの本がないから……。編集部の皆さんも、体に気をつけてがんばって下さい。

中学校の先生は『ガロ』を生徒に紹介すべきだ!!

水音六郎（杉並区）

中学二年生の頃の事だったと思う。ボクの大好きだった理科の都丸先生に『おまえ、漫画を読むなら、コーユーのを読まなくちゃダメだヨ』と言われて、僕は『ガロ』にでっくわしたのだった。中学の先生は、『ガロ』を生徒にぜひ紹介すべきだと、ボクは思う。
それから、十数年の月日が流れた。色々とつらい事もあったし、うれしい事もあったけど、十数年間、『ガロ』はボクの『心のささえ』だった。
この頃は、感動することがわりと多い。尾辻克彦先生が、芥川賞を優勝したと知ったときは、ウレシクテ色々な人にその話をしたけど、ボクのマワリの友人のひとたちは、さほど感激している人がいなくて、ウレシサを分かちあえず、モノタリナイ気持になってしまった。
マチス展とても良かった。鈴木翁二さんの『こくう物語』もとても良いと思います。ボクはうれしくなってしまいます。それから、ナベゾーさんの『タラコクリーム』も良いと思います(マッドネスぐらいおもしろい!!)。それから、ずっと前に安部慎一さんのヒドイ悪口を書いてた人がいたけど、ヤングコミックだったと思うけど、それに載ってた作品は良かったですよ。ヒドイ悪口を書いた人は、ソレを読んでからもう一度考えなおしてもらいたいと思います。
それからボクは、杉浦日向子さんがとても好きです。荒木先生には、感激させられっぱなしです。山田紫さん、谷弘兒さんも好きよ。それに、ノリマンは、ニナ・ハーゲンにマサルトモオトラナイくらい良いと思います!!

山田先生、もっともっと感動さしてな!!

東山秀樹（大阪市）

6月号は、ごっついよかったと思うたんよ。なかでも、「地獄のサラリーマン」のあの寒さはすごかった。何かを暗示してるようやった。それに、「ばらと拳銃」の独特な地域、おれらのまわりにも、知らんとこに、あるんちゃうかと思うたで。次は「ロボット」、前半は泉昌之ペースに引きずりこまれ、少しくどい所もあったが、何といってもオチが最高やった。
そやけど、オレはあいかわらず「しんきらり(4)」がいっちゃん好きや。ちょっとまちがうとオモロないようになるのに、毎回毎回感動させられっぱなしや。オレもよう「○×のうちは、シューマイにしょう油つけとったでー」とか、「あいつ所は、おにぎりにのりまけへんでー」とか、よくゆうたもんや。するとおかんは、「人とこは人やで」とゆうたもんや。バナナの話も、今でもきかされる時があるんや。昔は、「へー」と思って、「なんでバナナが上等やねん。オかしなことというな。」としか思えへんかった。そやけど、今聞くと「苦労してんなー」としんみりするんや。山田先生の作品は、ふっ、とすぎてしまうような会話のやりとりを、実にうまく表していると思うんや。もっともっと感動さしてな、とペンをとるぼくでした。

P・S・最後のよびかけアリガトウございました。

「DY―28」批判状!!

吉田弘子（福岡市）

先日、友達の家にてガロを発見!!中学校の頃、奇人で有名な（私は単なるマイナー指向型人間とみていた）友人がよくもってきてたもんですから、なつかしくなって、つい読み耽りました。S55・10月号でした。

菅野修さんの「笛」は、何度読み返してもあきず、その才能には驚嘆せずにはいられませんでした。しかし、あのくらいの人間段階に達した人の毎日を考えると、こっちまで悲惨になってきます（現実はそうでもないかも知れませんが……）。

それと、上野昂志さんの「目安箱」もおもしろく拝見させていただきました。自分が心で思ってて、口では表現できないことを、他人がずばりいってくれたりすると、まさにその通りだと思ってうれしくなるんですよね。

さて、その中でただ一つ、関口シュンさんの「DY―28」という作品は感心しません。あれは明らかに「ライ麦畑でつかまえて」のリメイクです。とはいえサリンジャーに共感する人は多いし、構成としてあれはあれでいいと思いますが〝バナナフィシュに最良の日〟のアイデアをそのまま使用しているのはあんまりだと思います。人はどうか知れませんが、私には興ざめの箇所でした。

タラコステッカ活用法

加茂峰子（佐賀県）

こないだ佐賀からやって来て、青林堂様にいろいろとお世話してもらった者ですが覚えてくれてますか？とにかくあこがれの青林堂へ行けて今なお興奮覚めやらず、毎日踊っております。本当に、紅茶御馳走になったり、タラコステッカ3枚もおまけしてもらったり、もう感動で涙チョチョ切れです。

タラコステッカは一度はりつけると、もうそこから移動させられないので充分にその威力を発揮しないと思います。そこであたしの場合、安全ピンとフエルト布でもって「特製タラコワッペン」に加工して活用しています。胸につけたり、お尻につけたり、とてもハッピーで、健康で文化的な最高の生活を営めます。

あーでも本当にガロって最高!!湯村&糸井、渡辺センセのセンスは超一級品で大好きです。でも、つげ義春センセにまでは、底の深さを含めて、まだ充分に届いてないみたい。他誌に載ってた「必殺するめ固め」を読んだときのどうしようもない行き場のないショックは、「ねじ式」を完全に上回りました。つげセンセのセンスは古くさ過ぎて、あたしらにはかえって目新しく写るんですよね。

とにかくガロのセンスを上回る雑誌は、今だかって読んだ覚えがありません(おせじ抜き)。失礼だけど、一見文明開化の明治おじいちゃん風の長井さんのどこに、こんな超一流センスとパワーが潜んでいるのでしょうか？

あたしはガロとストンーズなしには、今のところ生きてく気力がありません。

通信欄

■漫画専門の古書目録を年4回（3・6・9・12月）発行。ご希望の方は年間購読料千円お送り下さい。
〒194東京都町田市南大谷一三二七―73
〈赤沢充〉

■貸本漫画、漫画雑誌、単行本その他マンガに関するものなんでも買います。リストを送って下さい。
〒186東京都国立市東1―1―37
コーポ池谷203号
〈須賀典夫〉

ゴシップ

ガロ6月号に紹介した**ナベゾ**先生の**タラコクリームTシャツ**を予約製造するそーです!!製造元は**ブキミな活動**を続けるおなじみ**面白貼紙協会**で、申し込み方法は左記の住所宛にTシャツ代二千500円と送料の300円を現金書留または郵便振替でお願いします。（〆切は6月末日までの消印）サイズは**M**と**L**があるそーですから書き忘れないように!!実物は2色刷りでタラコもちゃんと赤いからねー!!

〒160―93新宿北郵便局内私書箱2063号
『タラコクリームTシャツ係』
振替口座―東京2―81426

今月**渡欧**される**荒木経惟**氏は連載を**10社**もかかえているが渡欧前に二ヶ月分の原稿を全部渡してしまうという、絶対に連載の**穴**はあけないゾ!!と秒刻みのスケジュールでガンバッテいる、やっぱり荒木さんは**スゴイ**人だ、そのスゴイ荒木さんの本がここ三ヶ月間ぐらいで**ドッ**と出てしまう。今月はそのドッとでる内の二冊を紹介しちゃう、まずは**冬樹社**から**「写真論」**（予価二千円）32頁の撮り下ろしとその現場を再現したライブ楽写だそーだ6月1日**〈写真の日〉**発売というのがナンとも**ニクイ!!**もう一冊は**アノ・集英社**から出る**「写真小説」**（予価千八百円・6月20日発売）写真で小説やっちゃうなんて荒木さんの発想はいつも豊かで**スル**

ドイ!!アノ・集英社も荒木さんの**ゲージュツ**についに**ヒレフ**してしまったというワケ

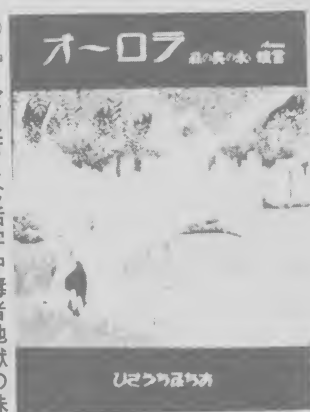
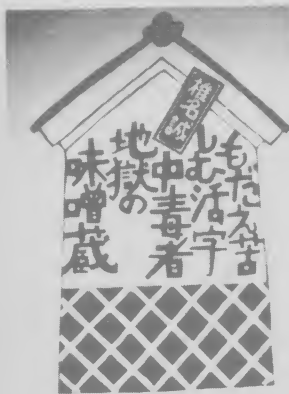
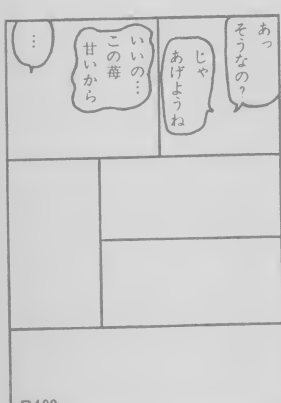
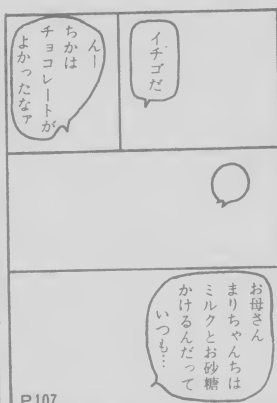
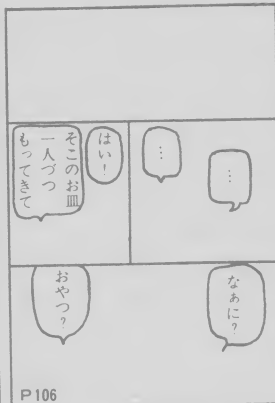
イベント

☞**〈殺風景〉浜田蜂朗展**
期間　6月9～15日（日曜日は休館）
時間　10時～5時半まで
場所　日本橋小西六フォトギャラリー
今後日本の写真界を背負って立つ浜田氏の個展です、写真に興味のある人は是非行ってみて下さい。

♨**演劇団「黄金箱（おうごんぼっくす）」主演山口美也子**
期間　6月4日～10日
開演　夜7時（7日マチネ3時あり）
場所　下北沢スーパーマーケット
銭　前売千三百円当日千八百円
問合せ☎（394）3225演劇団まで
一億人のお姉様山口美也子が**リフレッシュ**して今年この舞台に賭ける迫力の舞台です!!

BOOK

㊤**『ハナクロ探検隊』**（けいせい出版・定価560円）ガロで描く**「青の時代」**に代表される叙情的な作品とは違った、もうひとりの剽軽な**水丸**さんの世界が楽しめる本。そのまま切って作れる工作のページには、**紙相撲**や**ふく笑い**などもあって、これで560円は安い!!

㊤**『オーロラ』**（ブロンズ社・定価千400円）**〝森の奥の永い睦言〟**というサブタイトルで、**ひさうちみちお**先生が全篇描下したという**タマラナイ**一冊です。ところで**ビックニュース**来月号の巻頭はひさうち先生だから絶対見逃したらアカンぞ!!

㊤**『もだえ苦しむ活字中毒者地獄の味噌蔵』**（本の雑誌社・定価千400円）「本の雑誌」の名物編集長**椎名誠**氏の**スーパーエッセイ**です。それにしてもこの本のタイトルスゴイなー!!「あの『もだえ苦しむ活字中毒者地獄の味噌蔵』ありますか?」「えーと『もだえ苦しむ活字中毒者地獄の味噌蔵』は売り切れました。」「じゃ『もだえ苦しむ活字中毒者地獄の味噌蔵』は今度いつ入りますか?」「えーと、おーい『もだえ苦しむ活字中毒者地獄の味噌蔵』いつ入るかなー!?」

6月号のやまだ紫先生「しんきらり(4)」のネームの一部が、編集部のてちがいによりおちてしまいました。読者の方々及び先生には深くおわび申しあげます。次のようになりますので、補足してお読み下さい。本当に申訳ない。

郡山市の佐藤多佳子の作品　上

きゃわいいなーあなたたけです。こんなかわいいペンギンかいてきたのカマトトぶってコノ!!ノリマンにのったからにはマットーな青春はない!!
コワイナー

ノリコの漫画教室

ノリマン

〈渋谷でみたオッカシイ人・パートⅡ〉

これまでオカシイ人、けっこうみてるけど、今度のウシロ魔オッサンは、ショーゲキ的でした、なんったってオカシイの極致をいってんもんね、ボタンがしっかりとめてあるのが泣かせる、シッカリ見送ったあと、一時間ぐらい笑いがとまらなかったぜ!!

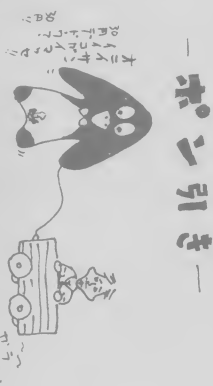
アレとペンギンの目が最高にイヤラシくてよい。今度、青林堂に来るときは、ぜしこーゆー目をして“頼んだ本かいにきた…”といってくれるとうれしい。

小金井市の長井篤の作品　中

そうゴカイしないように。でも… 太ももにひっついてるペンギンかわいいなー。思わずヒザ小僧でグリグリしたくなっちゃうぜ!!

春日井市の森雄一の作品　中

グハハ、これはおッカシイ!!ので💩マークをさしよげるゾ。ペンギンのうれしソーな顔に森雄一の性格の明るさがうかがえてよい!!

岩手の別井岩雄の作品　並

ポン引きの方法を追求すると、もっとおもしろい。カッチャンを工夫してほしかった。
これじゃ30円でも誰も買わないゾ!!

ペンギンの顔がなんとなくシャネルズのボーカルみたいでワルソーな感じが出ている。

町田市の大阪のブコの作品　中

ペンギンと谷田部の組み合わせはたいへんキモチがワルイ。谷田部のその気になってる目はもっとキモチワルイ。

🔔**ガロ定期購読**は、**一年分**（**11ヵ月**）**4500円・半年分**（**6ヵ月**）**2500円**となりました。右にあるとうり最善の方法は最寄の書店とご契約になり（送料なしで破損の心配がない）毎月配達してもらうか、とっておいてもらう事ですが、不都合の場合は当社宛ご送金下さい。書店によっては当誌を置いていない、というような不届きがございますが、その際は、「毎月置くように、必らず売れるから」と試みにいっていただけますとコージンです。（お使いだてしてスイマセン何卆ご協力をお願いいたします。）

バックナンバーは在庫僅少です。現在、**'75年の3・12月号、'76年の1月号、'77年の6月からの既刊分**の在庫があります。

（振替）東京〇―一三五四七七

ガロ投稿作家の諸氏へ

※ガロへ投稿する場合次のことを注意して下さい。

①原稿料が出ません。当社としてもたいへん心苦しく遺憾なことですが当分の間は、無理と思います。この問題は皆様にとっても重要なことと思いますのでよく考えてから投稿して下さい。

②返却用封筒（切手貼付）の入ってないものは、返却できません。

荷造りのテープで補強しておくとりたまない
※封筒と同寸のボール紙を入れておく

（返却用）

③寸法・原稿は必らずタテ27.3cmヨコ18.2cmでお願いします（仕上がりの一・二倍）

④墨汁または製図用インク（黒）を使用して下さい。中間の調子が必要な場合は、スクリーントーンを貼り込んで下さい。うす墨によるボカシはさけて下さい。

⑤セリフ・ナレーション（ネーム）は鉛筆で読みやすく入れて下さい。

⑥ページ数は何ページでもかまいませんが30・40とあまり多くなると本誌のページ割りがむずかしくなってきますので16～20ページぐらいが適当かと思います。

⑦送り先 〒101東京都千代田区神田神保町一の六二 青林堂

⑧なぜ投稿するのか、作品を通して訴えたいことは何かをもう一度よく考えて下さい。編集部としては作品が多少未熟であっても可能性のあるものは、意欲的にとり上げるつもりです。皆さんの作品を期待しています。

以上